

かつて流行「日本住血吸虫病」 2019.5.24 毎日

差別や苦ししみ、知って

甲斐・橋田さん出版「茶碗の欠片」



出版した本を手にする著者の橋田浩子さん＝甲斐市の自宅で

甲府盆地を中心に風 水田などにいるミヤシ 土著として恐れられた 「日本住血吸虫病」 (通方病) を風化させ たくないと、異時人会 副会長の橋田浩子さん (71)＝甲斐市、本名・ 千野浩子＝が「茶碗の 欠片」を刊行出版した。 原因の究明や根絶に貢 献した人たちの史実を 紀事時としてまとめた もので、橋田さんは「か つて病や差別で苦しん だ人がいたことを知っ てほしい」と語ってい る。

本書では、感染者が 史実で確認できる戦国 時代から終戦宣言が出 された現代までの歴史 をたどる。

第3章では自身の体 験を解剖し提供した白田 村(現甲府市)の歴史、 杉山なかをとり上げ た。死を覚悟したなか は遺言「死体解剖願 望の欠片」と呼ぶ人も いたという。

橋田さんは約30年前 に甲府市から甲斐市に 移り住み、近所の女性 からかつて周辺で日本 住血吸虫病が流行し たことを聞き、関心を 持ったという。県内の 図書館を回り、地方病 に関する文献や新聞 まで。【高田奈美】

記事を読みあさった 広島や福岡にも足を運 び、研究に貢献した 医師らの石碑が建つ場 所なども取材して採り だ。

橋田さんは近年、県 内で日本住血吸虫病を 知らない人が増えとい ると危惧している。橋 田さんは「海外ではま た終息していない国も ある。人ごとだと思わ ず、関心を持ってほし い」と語った。

税別2万200円。県 内では甲府市のシエン ク堂、明月堂などで購 入できる。問い合わせ は橋田さん(090・ 9153・8010)